



岩間 泰彦 議員

安心・安全快適なまちづくりを

質問

4 m未満の道路に面した土地で建築確認の申請があった場合、セツトバックが条件と
思いますが、どんな取り扱いを。

後退用地については、舗装整備は誰が、市への寄付をお願いしているのか。維持管理は、市の方針は。



セツトバックした狭い道

経済建設部長

二項道路の取り扱い、道路中心線より2 m以上後退したところへ構築物の建築を行うこと。後退用地は寄付採納をする場合は別だが、そうでない場合は個人で維持管理となる。

質問

「生活こみち整備促進事業」では助成金を交付している。市も助成金などを支給し、

安心・安全のまちづくりのため、狭い道路の整備を促進しては。

経済建設部長

市街地や集落内の道路は狭く、救急車両が入っていけないところもあるのが現状。

生活こみち整備促進事業と囲領道路は似通っており、囲領道路の問題を解決したい。

質問

安心・安全快適なまちづくりのため、佐屋町では横断的な組織で、自主ボランティア団体を立ち上げようとしている。

現在市には、そういった団

体がいくつあり、どんな組織でどんな活動をし、市はどんな指導、アドバイスおよび補助をしているのか。

総務部長

団体は個人を含めて40あり、

活動内容は登下校時における交差点、横断の誘導、通学路などの監視などが主な活動。支援の関係は、帽子、ベスト、たすきを提供、また、災害補償として損害保険に加入している。

三大型工事を見直し 原資の調達を

質問

総合斎苑は27億円、勝幡駅前整備事業20億円、給食センター17億円の合計約64億円。トップダウンで10%削減を

目標に見直しをするよう検討を指示しては。検討する余地は充分あるのでは。

いて、住民の理解を得るには、三大型工事を見直し、検討して削減をし、原資を生み出す

とともに、佐屋庁舎北側に増築するという方法ならば、住民の理解を得やすいのでは。

副市長

検討委員会の審議状況を見極めながら、それを踏まえて対応を考えていきたい。

副市長

今回の大型工事に限らず、常に経済状況の動向などを注意して設計・見積もりをよく精査するよう市長から指示を受けており、内部努力はしている。

市長

検討委員会の答申を尊重しながら考えていきたい。

質問

さらに大型工事をするにつ

その他の質問

○土地利用構想のその後は